

特定質問

関 沢 和 泉

筆者は主な研究対象を異にするが、岩熊氏の研究に密接に関係する国際研究プロジェクト *Projet Glosulae* (2005-7年)に参加していた経緯で、そこでの未刊の議論を多少知るため、それらを追いつつ一般的な問題へと繋げてみたい。

岩熊氏は、「それは誰による／とっての名か」を問わずに「唯名論(者)」「普遍論争」と言った名称・図式を濫用する事に反対し、主に12世紀を対象に、歴史の具体的な現場において、どのような学説が現れ、それがどのように当時の人々により理論的立場として認識され名付けられ流通し消えて行ったのかを、パズル状に私達に残された写本群の発掘を通して再構成されてきた。例えば、学会中も名が引かれたヨゼフ・ライネルス氏の直観を遠く受け、当時、最初に使われた学派を名指す名は唯名論者ではなく *vocales* ないし *sententia vocum* であったことを、今回の発表は、そうした *vocales* という名の生誕を少し遡ったところに始まる。

上述の研究プロジェクトは、シャンポーのギョームが関与し12世紀に現在知られる形で成立したと思われるプリスキアヌス文法書への長大な註解 *Glosulae* の文化・社会的な背景を、哲学(史)の専門家だけでなく歴史家・写本学者等との共同作業を通して再検討しようというものであった。その中でマーガレット・キャメロン氏とジョン・マレンボン氏は、テキストの著者・年代を容易に特定できないこの時代について歴史的なアプローチを採ることは不可能であるとし、岩熊氏やコンスタント・ミューズ氏の歴史の再構築を19世紀的「偉大な哲学者達による歴史」観の残滓であり「私達は歴史の再構築を放棄し理論の分類研究にのみ留まるべきではないか？」と主張する。だが、この見解には次の点が欠けている。彼らは歴史的な「事実」の不確定さに対し「理論的立場」という分析対象が確固として存在していると前提し、それを研究の根拠とすべきだと主張するが、実際に写本の現場に足を踏み入れれば分かるように、テキスト自体、私達の歴史的な知識の総体を通してのみ読むことが可能なるものであり(省略法の時代的な変遷、句読点を打つために必要な当時の議論の前提・組み立ての認識等々)、私達は理論素の素朴実在主義ではなく、様々な知識の総体を通して対象となるテキスト群と理論が存在するというホーリズムを採らざるを得ない。安定した足場として単一テキストがあるというのは印刷術がもたらすある種の幻想で

ある。第二点は、彼らだけでなく全体的な混乱の背景にあると思われる、記述の際に用いられる概念・カテゴリー・名の由来についての混迷である。「Vocales」につながると見られるが、当時いまだ名を与えられていなかった一群のテキストの立場をどのように名指すべきか。それを、マレンボン氏は歴史を超えた「哲学的な諸立場」のカテゴリー分けの問題として扱われているようである。

ここで emic と etic という用語対を導入したい。言語学と文化人類学という二つの由来を持つため定義に揺れがあるが、一般に流布している理解に従い単純化すれば、前者が特定の対象集団に意識化・運用されている分類カテゴリー、後者が観察する側、研究する側が持っている（普遍的・科学的とされる）カテゴリー（の／による分析）である。岩熊氏の研究は、基本的に、当事者に意識化された諸立場の emic 的な追跡を目指すのに対し、マレンボン氏が *vocales* と *pre-/proto-vocalists* に見出そうとするのは「哲学的」な立論であり etic 的な探求である。無論、文化人類学や言語学と違い、私達の間で直接答えてくれるインフォーマントはいないため、資料上で追える学派のラベルを超え、ある理論的な立場が意識化され存在していたのかどうかについて論じるのであれば解釈の余地が多分に入ってくる。岩熊氏の *vocales* 以前へのアプローチが、これまで以上に議論を引き起こしたのは、*vocales* についての議論とは違い、当時いまだ名指されていない立場についての、端的に emic に留まることの難しい議論に踏み込んでいるからではないだろうか。Emic なのか etic なのかという点についての研究者間での了解の不在が、この議論を本来以上に混乱させ続けているように思われる。

回 答 矢内氏への回答

便宜上第二の質問から答えたい。

写本ではロスケリヌスに帰されている『範疇論』注解は、その後の再検討によってロスケリヌスのものではないと現時点では判断している。むしろ LNPS と同時期のアベラールの教説をその弟子が記録したものだと思われる。（拙論『ロスケリヌスの「範疇論」注解』の結論は残念ながら撤回しなければならない）。従って、ロスケリヌ